

「平成30年度 配慮を必要とするこどもの保育研修会」報告書

- 【期日】平成30年10月24日（水）
【会場】佐賀県社会福祉会館 大会議室
【主催】佐賀県保育会
【参加者数】100名
【内容】



研修1 10:30～12:00

「配慮を必要とするこどもを支える保育者のメンタルヘルス」

講師 木村 佐宜子氏（若楠療育園 臨床心理士）

研修2 13:00～16:00

「1. 胎児・神生児・乳幼児の驚くべき生理

2. 気になる子への支援と対応」

講師 橋本 武夫氏（社会福祉法人若楠副理事長・若楠児童発達支援センター長）

研修1

「配慮を必要とするこどもを支える保育者のメンタルヘルス」

講師 木村 佐宜子氏（若楠療育園 臨床心理士）



1. メンタルヘルスケアとは

全ての働く人が健やかに、いきいきと働けるような気配りと援助をすること、及び、そのような活動が円滑に実践されるような仕組みを作り実践すること。

・職場のストレス

ストレッサー（作業の質量、量的負担、不十分な物理的環境、人間関係）



ストレス反応（疲れる・イライラ・仕事への不満・意欲の低下・出社困難）



ストレス病（うつ病、胃潰瘍など）

・「悪いストレス」の見分け方

日常生活に支障がでる

- ① 体調が悪くなる（食欲低下、頭痛、胃痛など）
- ② 睡眠がとれなくなる（寝つけない、熟睡感が無いなど）
- ③ 意欲がなくなる（ミスが増える、人に会いたくない）

・「良いストレス」

- ・仕事にめり張りがある方がやる気がおこる
- ・適度なストレスはやる気や達成感を生む

◎自分の「適性ストレス」を知っておくことが大切。自分の心の健康は自分で守ろう。

◎技術を身につけやりがいを念頭に置いて、自分が精神的に成長する事。

全ては自分の人生。自分が決定したものと自覚すること。

2. 配慮を必要とする子どもを支える仕事からメンタルヘルスを考える。

○保育士は配慮を必要とする子どもであることを知って仕事をするのかそうでないのかではストレスがかなり違ってくる。やり方の工夫ができると疲れが喜びに変わる。

○保育のプロの視点のすばらしさ（行動観察、指導の際の勘などプロの見る目は確かなことが多い。）

○配慮を必要とする子どもとは

- ・指示が通りにくい・理解力が低い・コミュニケーションが取りにくい・
- ・じっとしていない 乱暴・集団行動がとりにくい・感覚の過敏さがある

○具体的な発達の特徴

1. 自閉症スペクトラム
2. 注意欠如・多動性障害
3. 学習障害
4. 知的な遅れ

○支援の方向⇒「信頼関係を作ることから」明日も同じように接してくれる安心感を持てるように。

○対応

- ・先生方の気がついていない子どもの問題を保護者とじっくり話し合う。
- ・私たち支援する側の価値観も問われる
- ・時を待つ

○職員間の共通理解

- ・先生方が子どもの良き理解者になる。
- ・お互い様の気持ちで協力・助言を気軽に行う。
- ・担当の先生を孤立させない。
- ・管理職の理解を得る。
- ・職員間でよく話し合いアイデアを持ち寄る
- ・他の専門職のアイデアも利用する

研修2 「1. 胎児・神生児・乳幼児の驚くべき生理

2. 気になる子への支援と対応」

講師 橋本武夫氏（社会福祉法人若楠副理事長・若楠発達支援センター長）



1. 胎児・神生児・乳幼児の驚くべき生理

- ・神生児⇒橋本先生は新生児ではなく神生児とする（日本は昔から赤ちゃんは神様からの贈り物）
- ・「えーっそうだったの？あまり聞く機会がない」
 - ① 命の芽生え（2億分の1の命の芽生えから、貴重な命）
 - ② 胎響とは（胎児の驚くべき能力、妊娠しているときから子育てが始まっている）
 - ③ おふくろの味（羊水は妊娠中の食事、母乳）
 - ④ 胎児・神生児の神秘（卵円孔は脳に高い酸素を運ぶ最短の近道
動脈管は下半身への短通路の役割）
 - ⑤ 出産の生理（出産にも神様の贈り物がある。陣痛・胎脂・産道）
 - ⑥ 早期母子接触（最初の絆、五感を介した母子間のコミュニケーション）
 - ⑦ 母乳の神秘（胎盤を通してもらう免疫、初乳からもらう腸管免疫）
 - ⑧ 断乳・卒乳の誤解（断乳とは、親の都合でやめる児が自然に離れていく）
卒乳には親が決めて授乳を中止する親主導型と児が自然に母乳を必要としなくなるまで待つ児主導型がある）

2. 気になる子への支援と対応

- ①何かおかしい子の急増
 - ・目が合わない・指差ししない・振り向かない
 - ・言葉が出ない・無表情・問題行動
 - ・逆にぎゃーぎゃー・キレる・多動・孤立・こだわり
- ②環境、生活は？
 - キャッチボール、戯れの不足！
 - ・抱かれていない・テレビビデオにどっぷり
 - ・怒ってばかり・お父さんの顔が見えない
- ③対応
 - ・ほめる・Hug・お父さんが3ポイント！
 - ・改めて同調の反復の繰り返しが重要
泣く⇒抱く⇒安心⇒眠る
空腹⇒抱く⇒おっぱい⇒満足
反応性と応答性のキャッチボールが子どもの心を育てる第一歩！

※褒め方 気軽にすぐに感情をこめて「ありがとう」「やったね」「すごいね」「さいこう」
「かっこいい」「すばらしい」

※愛着は日々のやり取りから ・見つめ合う・抱っこ・声を出し合う・一緒に笑う・風呂に入る・子守歌

※タッチケアのこころは「ふれ愛」・タッチケア・じゃれ合う

心を込めてふれあうとお互いに癒される⇒安心感・満足感・幸せ感

“Hug” は百葉の長なり

(報告)

健全な保育園であるには、まずは職員が健全であることが大事であるということを改めて感じました。また、「配慮を要するこどもを支える」には職員ひとりで抱え込むのではなく、職員間で支え合い共通理解を図ることが必要だと思いました。最後に橋本先生、木村先生と一緒に質疑応答の時間があり、沢山の質問に答えて下さいました。また、個別に相談されている方も多くいらっしゃいました。とても有意義な時間を過ごさせていただきました。

(文責 鳥栖双葉保育園 原 美佐子)